

生産者 各位

J A 東びわこ

【営農情報】 台風接近に伴う対策について

台風10号が8月27日頃から近畿地方に接近する予想がされています。
勢力によっては、長時間に渡って猛烈な風や非常に激しい雨をもたらし、農作物や施設に大きな被害を及ぼすことが考えられますので、早めの準備で台風対策に備えましょう。

【水稲】

収穫まで日数のかかる品種については、強風による被害軽減のため深水管理を願います。

1. 台風通過前の対策

①浸水被害の予防

排水路の詰まりなどによる浸水被害を考慮し、排水路および周辺の清掃、補修を行ないましょう。

②貯蔵施設において、あらかじめ浸水の被害が想定される場合には、収穫物を浸水の危険が無い安全な場所に移動するなど対応に努めてください。

2. 台風通過後の対策

①浸冠水した場合の排水

一刻も早く排水できるよう努めましょう。

②白葉枯病の対策

降雨により冠水したほ場や、風当たりの強かったほ場では発生しやすいので、浸冠水した場合は直ちに排水に努めましょう。

【大豆】

1. 台風通過前の対策

①品質低下を防ぐため、速やかに排水するよう排水溝の点検・補修を行い、確実に排水するよう排水対策に努めましょう。

2. 台風通過後の対策

①冠水又は浸水の被害を受けたほ場においては、速やかに排水をおこなひましょう。

②冠水や浸水を受けた場合、生育遅延や根腐れを引き起こし、日照不足と相まって、病害虫に対する抵抗性が弱まること、また、風により莢が損傷した場合や倒伏した場合に、傷口からの病原菌の侵入により、カビ、腐敗粒、紫斑粒の発生が懸念されるので、病害虫の発生動向に注意して防除が必要になります。

【野菜】

I 施設野菜（雨よけを含む）

1. 台風通過前の対策

- ①パイプハウスが耐えられるのは風速25m程度（アーチパイプ 25mmφ、50cmピッチ、間口6.0m）で、補強パイプを入れたコンクラハウスでも風速32m程度と考えられる。内作に影響がなければ、フィルムは除去しておく。内作がある場合はハウスを密閉し、隙間や破れ、緩みを点検し補修する。
（ハウスバンドの締め直し、バンド固定用のパイプや番線、らせん杭の点検、フィルムの補修、ドアの補強等）
- ②換気扇があるハウスでは、出入口を密閉して換気扇を稼働させ施設内を負圧にする。
- ③風圧を弱める対策として防風ネットをハウスの軒高と同じか高いくらいに設置する。
- ④パイプ埋め込み部分が水で緩くならないよう、ハウス周囲の排水溝を点検して手直しする。
- ⑤強風により、資材・木片・小石等が飛来して被覆資材が破損しないように、施設周辺を清掃しておく。
- ⑥生育中の野菜がない簡易パイプハウスなどでは被覆資材を巻き上げて軒の部分にくくり付ける。
- ⑦鉄道沿線や幹線道路沿いのハウスではフィルム等が飛散し、2次的な大事故の原因とならないように十分に注意する。
- ⑧台風の強風により骨組みに支障をきたす場合はビニールを確実に破り骨組みを守って下さい。※ハウス園芸共済加入者については、ハウスビニールの補償がされます。

2. 台風通過後の対策

- ①速やかにほ場の排水を行い、停滞水のないようにする。
- ②吹き返しの風の強さや方向に注意しながら、サイドビニールの巻き上げ・天窓の解放を行って、施設内温度をできるだけ早く降下させる。
- ③茎葉に付着した泥等は、速やかに殺菌剤や水などで洗い流す。
- ④野菜や苗等のしおれが甚だしい場合は、寒冷紗やべたがけ資材等を被覆して、高温の場合は植物体温の低下と蒸散の抑制を図る。
- ⑤茎葉の被害により、細菌病等の病害が発生しやすくなるので被害株や被害葉を除去し、防除を徹底する。
- ⑥草勢を回復するため、台風通過後に液肥の葉面散布・追肥を行う。また、土壌表面が固まっている場合は軽く中耕する。

II 露地野菜

1. 台風通過前の対策

- ①排水溝をさらえるなど排水に努める。また、排水口は必ず作っておく。
- ②収穫中の野菜は早めの収穫を行う。
- ③播きつけ直後のものは、種子の露出を防ぐために寒冷紗等で被覆する。
幼苗期のものは、台風前に土寄せや土入れを行って株の揺れを防ぐ。
- ④風速が強くなる場合は、事前に誘引ネットやテープを切って、畝の上におろし、上から防風網や寒冷紗等で押さえるなど動かないように固定し、台風の通過後に復元する。
- ⑤ほ場周辺に防風ネットまたは防風垣を設置する。

2. 台風通過後の対策

- ①速やかにほ場の排水を行い、停滞水のないようにする。
- ②被覆資材で被覆している場合には、できるだけ早く除去し、付着した泥を殺菌剤や水で洗い流す。
- ③風雨で損傷を受けた場合は、早急に殺菌剤を散布し予防に努める。
- ④支柱を立て直し、誘引する。
- ⑤株元が露出したり土壌が固まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せを行い、畝全面を軽く中耕して通気性をよくする。
- ⑥豪雨により肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の窒素やカリ肥料を追肥する。
- ⑦草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布が効果的である。

【果樹】

1. 台風通過前の対策

- ①幼木や品種更新のために高接ぎしたものは、支柱を立て枝折れが起こらないよう主枝や幹をしっかり誘引し固定する。
- ②ナシ、ブドウ、キウイフルーツ等の棚栽培する果樹は、強風が棚面をあおり被害を大きくするので、太い棚線の交差部分に重さ2kg程度のおもりをぶら下げ上下動を少なくする。棚線や支柱の強度、欠損箇所を確認し、支柱を増やしたり、棚線を張り直して緩みをなくするなど、棚自体を補強する。防風、防虫ネットを設置している園ではネットの結び目等を確認する。
- ③ハウス栽培では、控え線やハウスバンドを締め直し、ビニールの張りを点検する。また、ハウスの周辺から物が飛んできて破損することがないように見回り予防する。強風時はビニールを張って完全密閉し、換気扇がある場合は稼働させハウス内を負圧にし、ビニールのばたつきを少なくする。
- ④ハウスの強度を上回る強風が予想される場合は、天窗やサイドの換気部分を全開にして、ハウスの上部と妻部分のビニールを外すか破り、ハウス本体が倒壊破損しないようにする。
- ⑤シートマルチ栽培では、シートマルチが強風であおられると風ズレ果や枝折れが発生しやすくなるため、シートマルチの押さえを点検して補強する。

2. 台風通過後の対策

- ①落葉や枝葉の損傷が激しい場合は、樹の被害程度に応じた着果量に摘果する。
- ②雨による病気の蔓延や風による樹体の傷口から病気の感染の恐れがあるので、農薬安全使用基準に従って殺菌剤を散布する。
- ③倒木した場合は速やかに起こし、支柱などにくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻し、癒合剤を塗布する。
- ④降水量が多く、ほ場に長期間滞水する場合は、根の活力低下を防ぐため、側溝のゴミ、泥の除去、除草を行うなどして水の流れを良くしたり、浅い溝を掘って表面水を園外に排水する。

【花き】

1. 台風通過前の対策

- ①施設に対する対策は野菜に準ずる。
- ②降雨が速やかに排水されるように、排水溝をさらえるなど排水対策を講じる。
- ③草丈の低い花については、寒冷紗等で被覆する。
- ④畝の両端の親支柱や中間支柱をしっかりと立て直し、中間にクイを入れ補強する。
- ⑤フラワーネットは頂点から3分の1程度下がったところで支持する。
- ⑥収穫前の小菊等は、早めに収穫する。

2. 台風通過後の対策

- ①病害が発生しやすくなるので、病害防除を徹底する。
- ②速やかに排水を行う。
- ③風雨で傾いた場合は、なるべく早く株元から直す。

3. 小菊の対策

- ①台風が来る前に固めの切り前で収穫し、常温で水揚げ、保管後に出荷。
「調整」→「水揚げ」・「常温で良いができるだけ涼しい場所での保管」→「箱詰め前の再度切り戻し」を必ず行う。
- ②台風が去るのを待って午前中に収穫し、通常出荷。
風雨による花弁や葉の傷みは、高温、ムレにより症状は重くなるので、収穫後の水揚げや調整作業時は、通常よりばらけさせて取り扱う。
収穫時に葉や花が濡れているときは扇風機などで乾かし、ムレを防ぐ（茎葉が濡れたまま箱詰めしない。）